

潰瘍性大腸炎について

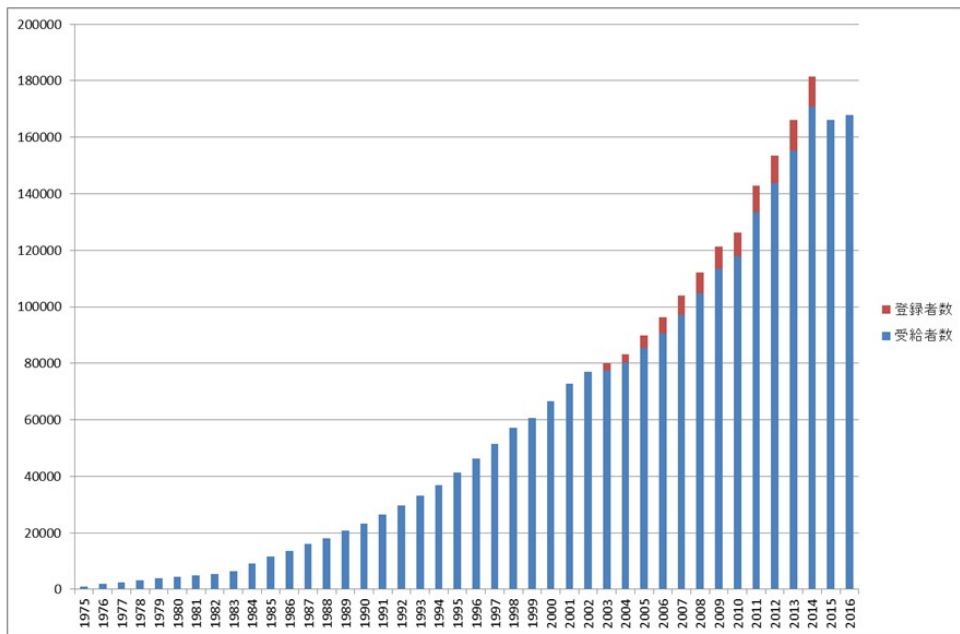
潰瘍性大腸炎は炎症性腸疾患のひとつで、大腸の粘膜に炎症が起きることによりびらん（ただれ）や潰瘍ができる原因不明の慢性の病気です。主な症状としては、下痢や血便、腹痛、発熱、貧血などがあります。また、さまざまな合併症が発現することがあります。

潰瘍性大腸炎は、厚生労働省から難病に指定されていますが、適切な治療をして症状を抑えることができれば、健康な人とほとんど変わらない日常生活を続けることが可能です。

この病気の患者さんはどのくらいいるのですか？

潰瘍性大腸炎は、以前はまれな疾患とされていましたが、年々増加し続け、平成26年度末には日本で約17万人の患者さんが登録されています。

潰瘍性大腸炎医療受給者証交付件数の推移



<https://www.nanbyou.or.jp/entry/62>

この病気の原因は分かっていますか？

原因は明らかになっていません。腸内細菌の関与や本来は外敵から身を守る免疫機構が正常に機能しない自己免疫反応の異常、あるいは食生活の変化の関与などが考えられていますが、まだ原因は分かっています。

この病気の遺伝するのですか？

潰瘍性大腸炎は家族内での発症も認められており、何らかの遺伝的因子が関与していると考えられています。近年、世界中の研究者によりこの病気の原因を含めた特異的な遺伝子の探索が続けられていますが、現時点では遺伝に関する明解な回答は得られていません。遺伝的要因と食生活などの環境要因などが複雑に絡み合って発病するものと考えられています。

潰瘍性大腸炎について

病気はどこにできるのですか？

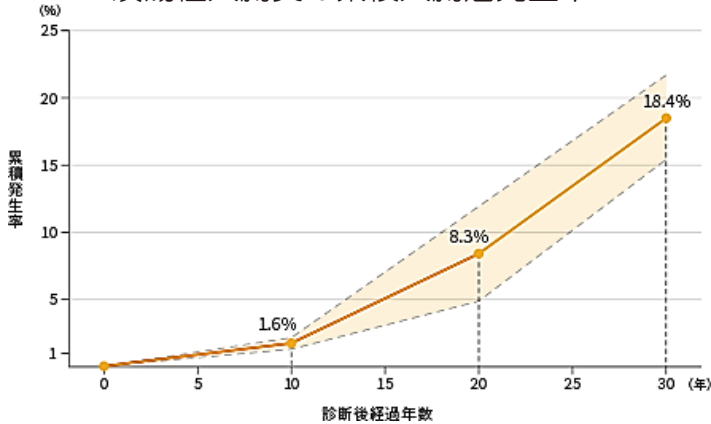


基本的に直腸から連続した大腸に炎症がみられますが、直腸だけの方（直腸炎型）もいれば、直腸からS状結腸、下行結腸までの方（左側大腸炎型）、直腸から全部の大腸（全大腸炎型）に炎症が起きる方もいます。

治療や検査（大腸カメラ）はしないといけないのですか？

治療をしないと下痢や血便、腹痛、発熱や貧血など全身の症状が続くだけでなく、大量出血や狭窄<きょうさく>（腸が狭くなること）、穿孔<せんこう>（腸に穴があくこと）などを起こします。

潰瘍性大腸炎の累積大腸癌発生率



Eaden JA, et al. : Gut 48 (4), 526-535, 2001

潰瘍性大腸炎で注意すべきことは、発病後長い時間の経過とともに「大腸がん」のリスクが高まることです。特に10年以上経過した全大腸炎型に発がんリスクが高いことが知られていて、定期的な大腸カメラによって早期発見することが重要になります。

直腸炎型の発がんのリスクは一般人口とほぼ同じです。

さいごに

潰瘍性大腸炎は「難病指定」になっていますが、根治（100%治る）に至る治療のない病気ではあっても、ただちに命に関わる病気ではありません。また、ほとんどの患者さんの生命予後（病気が命にかかわること）は普通の人と同じです。

しっかり病院に通院し、検査・治療をすれば怖い病気ではありません。ご不明な点などございましたら、当院にご相談ください。